



CLI から GSS デバイスを アクティブにする方法

この章では、GSS ネットワーク上で要求ルーティングおよびグローバル サーバロードバランシングを設定する最初の手順として、プライマリ GSSM の CLI から GSS デバイスをアクティブにする方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- [プライマリ GSSM から GSS デバイスをアクティブにするまたは削除する方法](#)
- [登録済み GSS デバイスの設定表示](#)
- [GSLB コンフィギュレーションでのスクリプトの使用](#)
- [次の作業](#)

プライマリ GSSM から GSS デバイスをアクティブにするまたは削除する方法

CLI にログインし、特権 EXEC モードを開始してから（第 4 章を参照）、グローバル サーバ ロードバランシング コンフィギュレーション モードにアクセスします。これには、グローバル コンフィギュレーション モードで **gslb** コマンドを使用します。CLI のプロンプトが (config-gslb) に変わります。例を示します。

```
gssm1.example.com(config)# gslb  
gssm1.example.com(config-gslb)#
```

プライマリ GSSM として GSS デバイスをアクティブにして登録する手順は、次のとおりです。

1. **gss-device** コマンドを使用し、GSS デバイスの設定を変更するか、またはアクティブにします。このコマンドで行う具体的な作業は、次のとおりです。

- GSS デバイスのアクティブ化
- ロケーションの変更
- 名前の変更

このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

```
gss-device Name [name newName] [location locationName] activate
```

キーワードおよび引数は、次のとおりです。

- **name** — GSS デバイスの名前を指定します。
- **name newName** — (任意) 新しい GSS デバイス名を指定します。
- **location locationName** — (任意) GSS のロケーションを指定します。ロケーションは、GSLB コンフィギュレーション全体の中に含まれます。
- **activate** — 特定の GSS をアクティブにします。一時点でアクティブにできる GSS は 1 つだけです。

例を示します。

```
gss1.com(config-gslb)# gss-device gss-sample.cisco.com name name1  
location sj activate  
gss1.com(config-gslb)#
```

指定した GSS が未登録の場合は、エラーメッセージが表示されます。



(注) このコマンドの設定は GSLB コンフィギュレーションに格納され、メッシュ内の他の GSS デバイスに伝達されます。

2. GSS デバイスを削除するには、**no gss-device** コマンドを使用します。このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

no gss-device *Name*

name 引数で、削除する GSS を指定します。

指定した名前の GSS が存在しない場合は、エラー メッセージが表示されます。



(注) **no gss-device** コマンドによって、**show gslb-config gss-device** コマンドの出力からデバイスのステータスが消去されます。このコマンドの詳細については、「[登録済み GSS デバイスの設定表示](#)」を参照してください。

3. **show gslb-config gss-device** コマンドの出力から GSLB コンフィギュレーションを消去するには、**clear gslb-config** コマンドを使用します。

このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

clear gslb-config

例を示します。

```
gss1.com# clear gslb-config
gss1.com#
```

GSS のコンフィギュレーションでロケーションを参照している場合は、このコマンドによってコンフィギュレーションからロケーションおよびリージョンのフィールドが削除されます。



(注) GSS のコンフィギュレーションで使用中のロケーションを削除しようとする、エラー メッセージが表示され、コマンドは実行されません。

登録済み GSS デバイスの設定表示

登録済み GSS デバイスの設定情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 登録されているすべての GSS デバイスを表示し、各 GSS デバイスについて最小限の情報を表示するには、**show resources gss-device** コマンドを使用します。このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

show resources gss-devices

例を示します。

```
gss-kingfisher.cisco.com#show resources gss-device
GSS Device: gss-kingfisher.cisco.com
  Status      : Online
  Node Services: GSS; Primary GSSM
  IP Address: 16.1.1.105
  Location    : Bangalore
  Region     : India

GSS Device: gss-kiwi.cisco.com
  Status      : Online
  Node Services: GSS
  IP Address: 16.1.1.114
  Location    : SJ
  Region     : USA
```

2. 特定のデバイスについて、詳細情報を表示するには、**show resources gss-device** コマンドに続いて名前を指定します。

このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

show resources gss-devices name

例を示します。

```
gss-kingfisher.cisco.com#show resources gss-device

GSS Device: gss-kingfisher.cisco.com

  General Configuration
    Name      : gss-kingfisher.cisco.com

  Locality
    Location  : Bangalore
    Region   : India
```

```
Node Information
  Status : Online
  Version : 2.0.0.0.5
  Node Services: GSS; Primary GSSM

Network Information
  IP Address : 16.1.1.105
  HostName : gss-kingfisher.cisco.com
  Mac : 00:c0:9f:e4:12:ef
```

- 登録済みデバイスの中で、GUI または CLI からアクティブにされたデバイスだけを表示するには、**show gslb-config gss-device** コマンドを使用します。

このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

show gslb-config gss-device

例を示します。

```
gss-kingfisher.cisco.com#show gslb-config gss-device
gss-device gss-kingfisher.cisco.com location Bangalore activate
```

GSLB コンフィギュレーションでのスクリプトの使用

script play-config コマンドを使用すると、必要に応じてスクリプトをコピーし、GSLB コンフィギュレーションで使用できます。

このコマンドのシンタックスは、次のとおりです。

script play-config filename

filename 引数で、GSLB コンフィギュレーションが含まれているファイルを指定します。

たとえば、次の CLI コマンドを使用し、プライマリ GSSM A から GSS コンフィギュレーションをコピーします。

copy gslb-config disk filename

さらに、次のように、**script play-config** を使用すると、プライマリ GSSM B でこのコンフィギュレーションを実行できます。

```
gss1.com(config-gslb)# script play-config sampleconfig  
gss1.com(config-gslb)#
```

デバイスが同じ名前登録されている場合は、このコマンドによってさらに、プライマリ GSSM B 上でデバイスをアクティブにするコマンドが実行されます。



(注)

v2.0 より前の GSS ソフトウェアバージョンから v2.0 にアップグレードする場合は、登録された GSS デバイスのコンフィギュレーション全体が維持されます。

次の作業

プライマリ GSSM から GSS デバイスをアクティブにすると、GSS ネットワークにおける要求ルーティングおよびグローバル サーバ ロードバランシングの設定を開始できます。プライマリ GSSM から GSS デバイスおよびリソースのグローバル サーバ ロードバランシングを設定する場合は、[第7章「グローバル サーバ ロードバランシングの概要」](#)に進んでください。

■ 次の作業